



# ベナンからの便り



青年海外協力隊 2019 年度 1 次隊

氏名：野澤 咲希

派遣国：ベナン共和国

職種：看護師

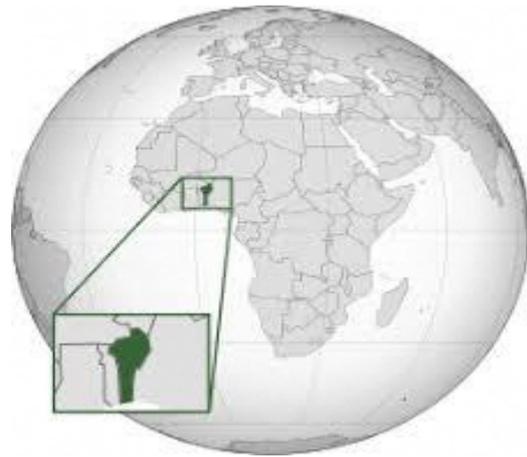
はじめまして。2019 年 7 月から、西アフリカのベナン共和国という国で、看護師として活動している野澤咲希です。ベナンに来て 4 カ月が経ち、生活にも徐々に慣れてきました。初回はベナン共和国と私の任地を紹介していきたいと思います。

## 「ベナンってどんな国??」

ベナン共和国はアフリカ大陸の西側に位置し、トーゴ、ブルキナファソ、ニジェール、ナイジェリアと国境を接する南北に長い国です。国土 112,620km<sup>2</sup>、人口 1,148 万人（2018 年）、日本の約 1/3 程の国土面積に人口約 1/10 以下程の人々が暮らしています。

ベナンにはフォン族、アジャ族、ヨルバ族、バリバ族をはじめ 40 を超える民族があり、公用語はフランス語ですが、それぞれの民族がそれぞれの言語を持っています。そのため、地域や民族によって話される言葉は様々です。自分の民族の言葉 + 公用語のフランス語、他にも学校では英語やドイツ語等の教育も行われており、多くの言葉が話することができる人もいれば、自分の民族の言葉のみ話す人もいます。

宗教はキリスト教、イスラム教の他にベナン発祥のブドゥー教という宗教があり、地域によってキリスト教徒の割合が多い地域もあれば、イスラム教徒の割合が多い地域もあります。また、キリスト教と共にブドゥー教を信仰している人々もいれば、イスラム教と共にブドゥー教を信仰している人々もいるそうです。



<Wikipedia より>



<任地アボメイの風景>

アボメイの大地は赤土で、青空とのコントラストがとても綺麗でアフリカっぽいな〜と気に入っています。

## 「任地アボメイの紹介」

私はベナン中南部のズー県アボメイ市（Zou, Abomey）という地域で暮らしています。アボメイ市はベナン共和国の前身である旧ダホメー王国時代の首都であったことから、UNESCO 世界文化遺産『アボメイの王宮群』をはじめ、ダホメー王国時代の名残を感じる建造物が残されている歴史ある街です。ほかにも、ブドゥー教の寺院等も多く、散策しているとちょっと変わった建造物達に出会えるのもアボメイの魅力だと思います。

また、アボメイ市にはベナン最大の民族、フォン族が多く暮らしており、フランス語の他に『フォン語』という現地語が話されています。私も現地の人々から日々フォン語を教わっていますが、習得するのはなかなか難しいです。というのも、フォン語は親から子へ口頭で語り継がれているため、現地の人々が話す言葉を聞いて覚えるからです。まだまだ簡単なフレーズや単語しか話すことができませんが、外国人である私がベナンの現地語で挨拶をすると、現地の人々は「君はフォン語が分かるのか!？」ととても喜んでくれます。自身の民族に対する誇りや伝統を大切にしている気持ちを感じます。



「ズー県とアボメイ市の位置関係」



「任地で見つけるちょっとシュールな建造物達」

住宅地を歩いていると、このような建造物にいきなり出くわしたりするので、驚くこともしばしば。どのような意味があるのか知らない物も多いですが、日々新しい発見があり面白いです。

### <塀の絵>

アボメイ市内には、このように家の周囲の塀に絵が描かれているのもよく見かけます。このような塀のある家は、ダホメー王国時代の王の子孫の家なのだとか。魚の他にもライオンやカメレオン、ヒョウ、鳥、人など様々な絵があります。



最後まで読んでいただき、ありがとうございました。不定期ではありますが、今後もベナンでの生活や文化、食べ物、日本との違い、保健センターでの活動に関して等も紹介できればと思っています。日本からは遠く、知名度も高くないベナンですが、ベナンの情報を発信していく中で、外国での生活やベナンという国に少しでも興味を持って下さる方が増えるといいなと思っています。

2019年12月

### ≪自己紹介≫

氏名：野澤 咲希

出身地：中津川市

経歴：高校卒業後、長野県内の大学に進学

長野県内の大学病院で5年勤務

現職を退職し、青年海外協力隊に参加

職種：看護師

配属先：ジエベ保健センター

任期：2019年7月～2021年7月

